

キャッチコピーの取り下げとお詫び

10月8日の情報公開時に記載した「早稲田でもっともつよい俳優をさがしています」。という、強めのコピーについて。

こちらは、私の中でどうしても……「つよい」俳優をみてみたいなと思って、私が作成し、ネットに文章をアップロードしてもらいました。

ですが、反応を伺う中、「もっとも」の部分が不適切だと私も思いまして、このコピーを取り下げます。

私に軽率さがありました。以下、その考えに至る経緯を綴ります。

今回、つよい、とは「自分自身がつよいと思う事を、自分に許す」ということをいいなと思い、それを最も感じさせる人と一緒に組みしてやっていきたいなあと考えていました。

そしてこのコピーを早稲田——今、演劇に関わる若い人がもっとも集まっている場所に広めて、俳優が「つよい」って何なのかを思ってもらう、という狙い、さらには、強めの言葉で注目をされたいという事もありました。

そしてネットにリリースした夜、ネットの反応を見つつ、この件で否定的なご意見を目にして、特に「もっともつよい人をオーディションで選ぶ、というのは、どういうことなのか」ということについて。

順位を付けられてしまう。それを、立場の強い人（私）が「あなたが最もつよいですよ」と人を選ぶということは、問題があると気付かされました。

オーディションの結果、求めている人の持つつよさが、今回の劇にマッチングしました、というのならわかる。「つよさの質が今回ぴったりでした」とかだったら。

でも、「早稲田でもっともつよい俳優」の、このコピー通りだと、「つよさ順位付け」「番付」という感じが出てしまう。

それは、強い権力勾配を生んでしまうのではないか。「もっともつよい」を選ぶお前はだれだ、何者だ。何の権利があって、そんなことを。

山本自身、もう42歳で男性で、キャリアも一応あるという中。そんなことを言って学生の俳優を集め、オーディションをするというのは、ハラスメントを生みうる状況になってしまうのではないか。

これは私が軽率でした。

大学で学生と共に作るという企画の中で、こうした事を危惧しえなかったのは、考えが足りませんでした。本企画に興味を持っていただいた学生の皆さん、申し訳ありませんでした。

そして危惧していただいた方、ご指摘ありがとうございます。

なので、このキャッチコピーは取り下げます。

そしてあらためて、早稲田でつよい俳優を探しています。

自分をつよいと思う事を、自身に許せる俳優と出会いたいです。

2025年10月9日 山本健介